

平成 27 年度 第 35 回 JANS 若手研究推進委員会交流集会のご報告

若手研究推進委員会主催の交流集会も今回で3回目となり、立ち見者も出るほどの大盛況のうちに終了することができました。ご参加いただきました皆様ありがとうございます！交流集会の概要をご報告いたします。

交流集会テーマ：看護研究者としてのキャリアデザインを描こう！

～博士後期課程修了後の未来が見えていますか？～

「博士課程を修了したものの・・・教育研究者として独り立ちするにあたり様々な壁を感じる若手研究者は少なくないのではないだろうか？」

委員会メンバーの実感でもあるこの課題に対し、我々の良きロールモデルとも言える若手研究者のお二人（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 講師 高井ゆかり氏、大阪大学大学院医学系研究科 准教授 山川みやえ氏）から、ご自身のこれまでのキャリアプロセスや、教育と研究のバランスを取りつつ研究を軌道に乗せるまでのエッセンスについて話題提供をしていただきました。その話題を受け、博士課程の学生を教育する立場から、千葉大学大学院看護学研究科 教授 酒井郁子氏より博士課程修了後の心構えについて、前向き且つ具体的なアドバイスを頂きました。

どのお話にも博士課程修了後、看護学研究者としてのアイデンティティを確立させつつ、キャリアプランを確実に実行していくための様々なヒントが散りばめられた内容でした。

今一度、「自身の看護学研究者としての未来予想図を描いてみよう！」と前向きな気持ちになられた方も少なくなかったのではないのでしょうか？

酒井先生が、「来た波に乗る。波が来なければ流のままに。そしていつでも波に乗る準備を！」と「キャリア・ドリフト」のお話をしてくださっていました。

いつでも、来た「波」に乗れるよう、知力と体力を磨き続けなければなりませんね！

★参加者のアンケート一部ご紹介

- ・このような集会が作られるほど、同じテーマで悩んでいる人がいることが心強く思った。
- ・野心的にライフワークにとりくんでいる話をきけて力をいただきました。
- ・演者の方々のみなさま、とてもキラキラしていて、今回お話を聞いて研究者になるのが楽しみになりました。
- ・若手研究者に焦点を当てた topic はなかなかなく、先輩の話を聞きこれからの自分のキャリアや生活のあり方を見直すいい機会となった。

